

令和5年（2023年）11月
発行：熊本県農業研究センター
熊本県農業研究センターの取り組み
を紹介します！

果樹関係研究成果発表会を開催しました！

9月15日に果樹研究所にて、果樹関係研究成果発表会を開催し、7つの成果を発表しました。現場に普及する際の疑問点などの質問があり、有意義な意見交換ができました。



発表会のあとは、自走式防除機の実演会、落葉果樹と常緑果樹に別れての所内ほ場現地検討会を行いました。



自走式防除機



↑動画はこちらからどうぞ
X (旧Twitter) に移行します。



常緑果樹の現地検討会の様子

日本土壌肥料学会2023年度
愛媛大会 口頭発表優秀賞 受賞



生産環境研究所の山下研究主任が若手研究者に贈られる口頭発表優秀賞を受賞しました。発表内容は「アスパラガス栽培において被覆尿素肥料を用いることにより施肥窒素を3割減肥できる」です。おめでとうございます！

目次

- P.2 R5公表 農業の新しい技術
アリウム「丹頂」切り花を従来より長く（6週間）貯蔵しても商品性を維持できる技術
- P.3 R5公表 農業の新しい技術
ニホンナシの新梢の退緑斑点症状は水和硫黄剤とスピロテトラマト剤の体系防除で軽減できる
- P.4 こんな研究に取り組んでいます！（研究所紹介：茶業研究所）
私たちが研究しています☆（研究員紹介：岩本研究参事、永田研究員）



©2010熊本県くまモン

(6週間)貯蔵しても商品性を維持できる技術

研究のねらい

熊本県特産花きのアリウム「丹頂」切り花は、出荷が4～5月に集中するため、労働力集中と単価下落が課題です。このため、貯蔵での出荷分散に取り組んできましたが、これまでの技術では1週間程度の貯蔵が限界でした。

そこで、1カ月以上貯蔵できる技術の開発に取り組みました。



研究の成果

500ppmジベレリン溶液を2℃の冷蔵庫内（暗黒下）で24時間吸水させた切り花を、引き続き2℃の冷蔵庫内で水に浸け直して貯蔵することで、アリウムの商品価値に影響する開花と茎の黄化が抑制され、6週間貯蔵してもその後の商品性を1週間以上維持します。

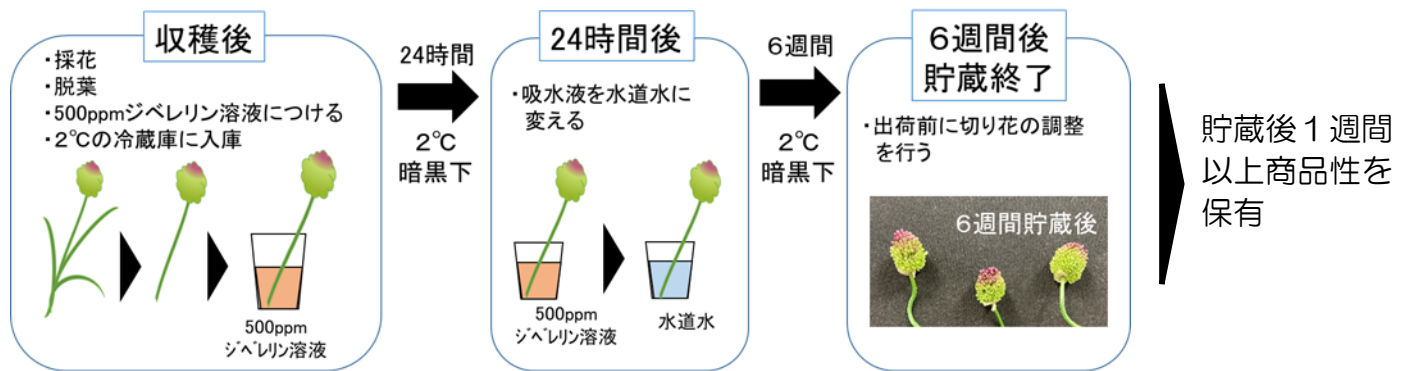


図 貯蔵の手順

- 2℃・暗黒下で水道水につけて貯蔵（2℃湿式貯蔵）することで、貯蔵中の開花は7週間程度抑制できますが、貯蔵後の開花は貯蔵していないものと比べて早い傾向があります。また、貯蔵期間が長いほど貯蔵後の茎の黄化は早いです。
- 100ppmジベレリン溶液を吸水させながら2℃湿式貯蔵した場合、貯蔵後の開花または茎の黄化発生日が1週間より長くなるのは、貯蔵6週間までです。
- 2℃湿式6週間貯蔵で吸水させるジベレリン溶液のタイミングおよび濃度は、貯蔵開始時の濃度500ppm処理であり、花梗の萎凋発生が少なく、開花および茎の黄化を抑制する効果も高くなります。

留意点

- (1) 茎の周りに葉が付いた切り花では、8週間以上の貯蔵で葉のカビや吸水液の濁り、茎の黄化が発生することがあります。
- (2) ジベレリン溶液の作成には住友ジベレリン協和液剤（GA3、住友化学株式会社）を使用しました。薬品効果が低下しないよう、500ppmに調整したら早めに使用してください。

スピロテトラマト剤の体系防除で軽減できる

研究のねらい

ニセナシサビダニが原因と考えられる葉の退緑斑点症状に伴う早期落葉は、ニホンナシの品質低下及び花芽不充実を招きます。

本研究では、新梢における退緑斑点症状を7月の伸長停止期まで軽減できる防除法を明らかにしました。

研究の成果

- 1 越冬期（2月下旬）に水和硫黄剤（クムラス）300倍を、新梢伸長期（5月中下旬）にスピロテトラマト剤（モベントフロアブル）2000倍を散布すると、新梢の退緑斑点症状の発生を新梢停止期（7月）まで抑制できます。

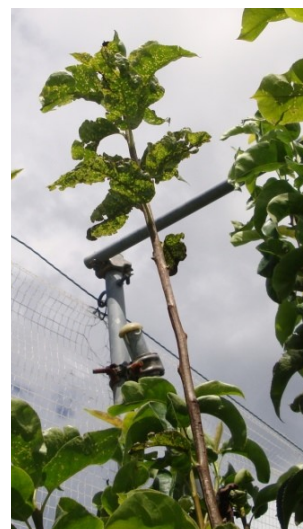


写真 葉の退緑斑点症状（左）と被害が甚大化した新梢（右）

- 2 さらに、退緑斑点症状の発生を抑制するだけでなく、本症状が発生した葉の被害度についても軽減できます（図1）。

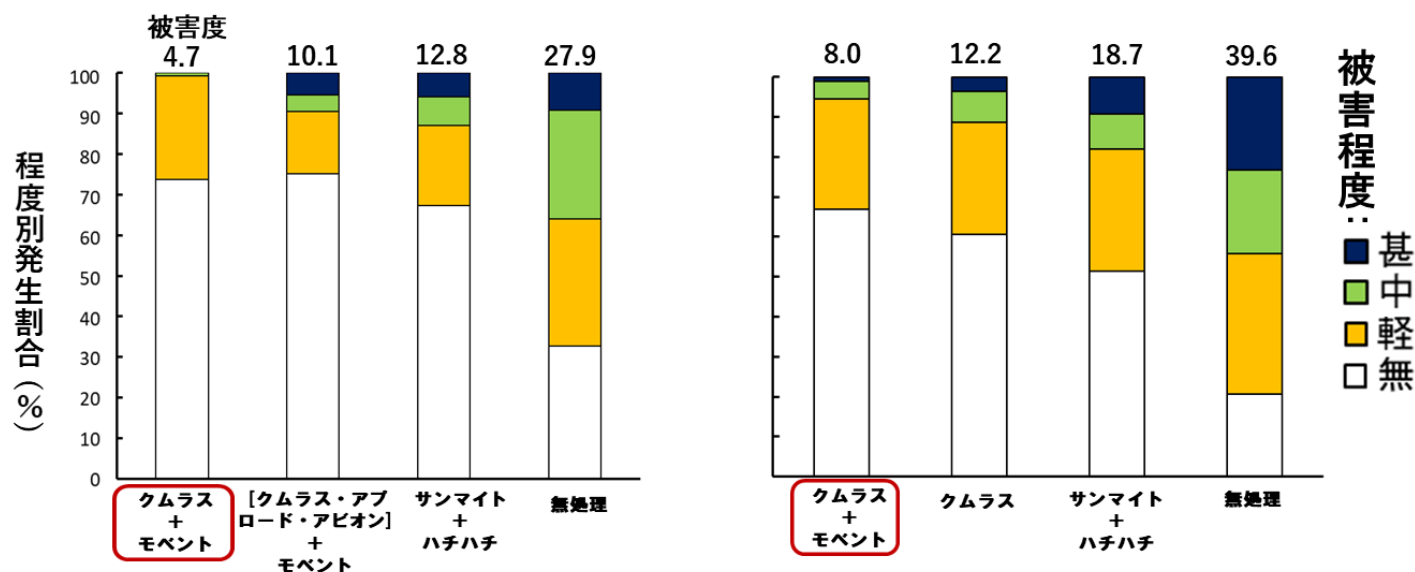


図1 新梢停止期（7月）の新梢における退緑斑点症状の程度別発生割合（左、2021年；右、2022年）

- 3 本防除体系は、同時に幼果の果梗裂傷被害も軽減できます（令和4年度熊本県農業の新しい技術No.743）。

留意点

- (1) 水和硫黄剤の散布は、薬害回避のために発芽前までに行います。
- (2) 越冬期にマシン油乳剤や石灰硫黄合剤を散布できない園で本技術が活用できます。

こんな研究に取り組んでいます！ 茶業研究所

熊本県の茶業は、県全域に様々な歴史や特色をもった茶産地が分布しています。栽培面積及び生産量は長期的な減少傾向にありますが、現在も全国有数の茶生産県として重要な位置を占めています。

本県茶業を維持していくために、高品質化によるくまもと茶のブランド力強化や、多様化する消費需要への対応、中山間地域での経営安定化に向けた技術開発が求められています。

そこで、茶業研究所では、本県初のオリジナル品種「熊本TCO1」の栽培技術の確立、近年の急激な肥料価格の高騰に対応した新たな茶園施肥体系の確立、生産コスト削減のためのティーバック用緑茶や機能性を重視したお茶の開発、スマート農業技術を活用した効率的な茶園管理技術の開発に取り組んでいます。



©2010熊本県くまモン

私たちが研究しています☆

今回は、茶業研究所（御船町）の岩本研究参事と永田研究員にお話をうかがいました！

これまでにお茶に携わった経験はありますか？

【岩本】県庁や阿蘇の農業普及・振興課に在籍していたころ、携わっていました。様々な品目の業務を経て、昨年度、茶業研究所に配属され、お茶に戻ってきたところです。

【永田】私は、入庁して一か所目が茶業研究所です。大学でもお茶に携わることはなかったので、初めてです。配属先を聞いたときは、「サギョウ？」「チャギョウ？？」と思ったくらいです。



永田研究員（左）と岩本研究参事（右）。
新品種「熊本TCO1」の苗の状態を確認しています。

お茶の試験や茶業研究所の魅力を教えてください！



永田研究員。発生している害虫を調査しています。

【岩本】お茶には製造（加工）の工程があり、味、香り、手で触った感覚など、五感をとても使います。県職員の仕事でこんなにも五感を使う業務はめずらしいと思います。

【永田】お茶はとても忙しい時期がありますが、計画を立てるときも、残業するときも、みんなで協力します。一人で残業することはないので、みんなで仕事ができ、勉強にもなります。

【岩本】チームです仕事が多いですね。忙しい時期はきついですが、一人じゃないので心強いです。

お茶の試験で難しいと感じる点は？

【岩本】永年作物なので、野菜などとは違って、肥料を撒いてもすぐには反応がない点です。でも、じっくり全体を見てみたら、変化があって、畑全体を観察することが大切だと感じています。

【永田】大学では、実験室内の試験だったので、試験条件を揃えるのは当たり前で、結果の考察もしやすかったです。でもお茶の試験は、ほ場での試験なので、気象や環境、永年作物なのでこれまでの管理など様々な条件が影響し、結果の考察が難しいです。

茶業研究所での経験を今後どのように生かしたいですか？

【岩本】お茶業界は年々厳しくなっていますので、茶業研究所での経験を活かして、生産者の手助けになるような仕事をしたいです。

【永田】お茶業界が厳しくなっている中、新品種を出すなど、熊本のお茶業界としては分岐点であり、とても貴重なタイミングに、茶業研究所でお茶に携わることができました。引き続き、可能な限りお茶に携わっていきたいです！

茶業研究所のみなさんのチームワークの良さ、写真撮影のときには仲の良さを見せつけられました！今後も熊本県の茶業界をけん引していく組織なのだと感じました。



茶業研究所のみなさん。



KUMAMOTO Pref.
農業研究センター

本紙に関するお問い合わせは、
企画調整部 企画情報課までご連絡ください。
〒861-1113 合志市栄3801
tel 096-248-6411 fax 096-248-7039
E-mail noukenkikaku28@pref.kumamoto.lg.jp



ホームページ



X(旧Twitter)